



令和5年12月22日
大津市立瀬田南幼稚園
園長 平木 秀樹

冬にしては暖かい日が続いていましたが、今週に入って急に気温が下がり冷たい風に思わず肩をつぼめてしまいますね。子ども達は白い息を吐きながらも園庭で元気一杯走り回り、その姿に頼もしさを感じています。今年も残りわずかとなりました。体調管理に気を配り、子どもも大人も明るく健康に新しい年が迎えられるようにしたいですね。



自然と楽しさに吸い寄せられて…

11月下旬に入っても温かく気持ちの良い日が続きました。子ども達もその日差しに誘われて、園庭で体を動かして遊ぶことを楽しんでいました。

5歳児そら組の子ども達は、PTAさんに買っていただいた真っ赤な竹馬が嬉しくて挑戦しはじめました。初めは立つことさえ難しいのですが、繰り返し取り組む中で少しずつですが歩けるようになってきた子ども達もいます。「見て見て～！」と喜びの声を上げるそら組さんの姿に吸い寄せられるように、4歳児ぱんだ組にも挑戦しようとする子ども達もいました。まだ、ぱんだ組はかかとのところに補助の足がついている竹馬ですが、それでも少し歩けると嬉しくて、何度も何度も挑戦していました。



PTAに買っていただいた竹馬！
ありがとうございます。【4・5歳児】

3歳児さくら組は、友達や先生と築山の上からフラフープを転がして遊ぶことがとにかく楽しい様子です。初めは数人の子ども達が先生としていたのを見て、その楽しそうな様子に吸い寄せられてたくさんの子ども達が集まり、繰り返し楽しんでいました。自然と築山の上に集まってきて一斉にフラフープを転がしている姿はとても微笑ましい光景でした。



フラフープの予想外の転がり方に歓声が上がります。【3歳児】

「さあ、みんなで竹馬をしよう！」「お山の上からフラフープを転がすよ～」と声を掛け合わなくても、その楽しそうな様子から『自分も楽しみたい』という気持ちを抱いて、自然と一緒に遊び始める子ども達の遊びの世界は素敵だな～と思うとともに、そこに幼稚園という集団生活の大切な意味があるのだろうと改めて感じています。

音楽会という共有体験から共感へ

12月13日（火）の音楽会は、多くの保護者の方にご参観いただき、ありがとうございました。

たくさんのお客様の視線を浴びて緊張しながらも子ども達は自信をもって歌や合奏に取り組み、大きな自信につながったことと思います。

3歳児さくら組は、舞台上立ってクラスのみinnで発表するのは初めてことなので、それまでの姿が出せるのか少々心配していましたが、とても良い笑顔で取り組んでいましたね。子ども達は一緒にカスタネットを鳴らしたり、歌を歌ったりすることで、「先生や友達と一緒に楽しいな、嬉しいな」というのを感じ取ることができていたのではないかなと思います。これまでの生活の中で、友達や先生と一緒に何かをすることへの安心感と楽しさへの共感が培われてきたからこそその姿だったと大変うれしく思っています。

4歳児ぱんだ組も4月からの生活を通してとても気持ちが落ち着いてきて、今年は自分達の音楽会をしっかりとやり通そうとする気持ちを子ども達の姿から感じ取ることができました。それは、自分ひとりだけ



『一緒に楽しむことができていた3歳児』



『友達と合わせて』という気持ちが見えた4歳児



『自分達の音楽会』という思いが感じられた5歳児

ではなくて、友達と一緒に声をそろえて歌おう、楽器を合わせて鳴らそうという思いとそれができたことの楽しさや喜びに共感し合う気持ちが育ってきているからだと思います。

5歳児そら組は、さすが最高学年だけあって「自分たちの音楽会」という思いがもっていたようで、音楽会に向けて楽器のパートごとに友達と鳴らし方を考えたり、「息を合わせて」歌った方がいいということに気づいたりして、クラスの友達と一緒に作り上げていく喜びを感じることができたようです。これは、きっと運動会の踊りを

友達と考えたり、リレーの走る順番を相談したりした経験があったからこそだと思いますが、子ども達の中に、友達と力を合わせてやり遂げた楽しさ、嬉しさの共感が積み重ねられてきたからだと思います。

音楽会の終わりのご挨拶でもお話させていただいたように、音楽会を含めて様々なことを友達と共有し、その中で「楽しいこと、嬉しいこと」を共感する経験こそが、友達との「つながり感」を高めますし、保護者から共感していただくことで「愛され感」が深まっていきます。

保護者の方からのアンケートには、早速、緊張の面持ちだった子どもさんに対してお家で「お父さんもお母さんもドキドキしたよ～」と声を掛けてくださったそうです。子どもにとっては、「上手だったね」とほめてもらうこと以上に、まさに歌っている時の自分の心持ちを受け止め、共感してくれているお父さんとお母さんの存在そのものが嬉しくて、『愛されているという実感』そして、『自尊感情』の高まりにつながったのではないかなと思います。

1年生との交流を通して

12月15日は、5歳児そら組が、瀬田南小学校1年生の『秋祭り』に招待していただきました。(11月実施予定が遅れてしまったそうです。)そら組が2グループに分かれ、1年1組と3組にそれぞれ入らせてもらい、途中で入れ替わってどちらのクラスとも交流をさせていただきました。

教室では、1年生の人たちがいろいろな遊びを考えて待っていてくれて、それぞれの遊びを紹介してくれました。遊びは、輪投げ、ボーリング、魚釣り、もぐらたたき、絵合わせゲーム、ビー玉転がし、金魚すくい、ゴルフなど、幼稚園の子ども達も楽しめるように考えてくれていました。初めは緊張してどこで遊ぼうかと迷って動き出せなかったそら組の子ども達でしたが、学校の先生が優しく誘い掛けてくれたり、1年生の人が「ボーリングに来てください」「楽しいですよ～」など口々に誘ってくれたりしました。そら組の子ども達は昨年一緒に幼稚園で過ごして知っている顔も見つけ、少しずつ気持ちもほぐれて楽しむことができました。

まだまだ説明もたどたどしい1年生でしたが、お兄さん・お姉さんとして幼稚園の子ども達を楽しませてあげようという気持ちにあふれていて、優しい1年生との触れ合いは、そら組の子ども達にとって4月の入学への安心感と期待感につながったことと思います。



2学期もありがとうございました！

保護者の皆様には、いつも温かいご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

2学期は、『自分でやってみよう』『あきらめないでやってみよう』を幼稚園生活の大切な合言葉として取り組んできました。2学期の始業式にもう一つ子ども達に伝えたのは、「**自分は大切**」という言葉です。これは“自尊感情”につながる意識を幼稚園の子ども達なりにもってほしいという願いをもって伝えました。この2学期の様々な経験の中で、友達との『つながり感』、お家の方からの『愛され感』を実感してきた子ども達は、きっと『自分は大切』という思いを抱くことができたことと思います。

冬休みもお子さんが『愛され感』を通して『自分は大切』ということを感じ取っていただけるように、ぜひお子さんとの**共有体験**と**共感**を大切にしてください。(特別なイベントが必要なわけではありません。)

それでは、よい新年をお迎えください。

